巻 頭 言

「技術力を高める」

“Enhancement of Technical Capability”

執行役員
生産本部・真岡工場長
佐　藤　泰　樹
Y. Satou

ものづくり，現場力等の言葉が雑誌，新聞等でさかんに語られているが，この言葉に対する切り口，理解は人さまざまで数々の本にもなっているテーマである．その中で「技術力」という切り口に焦点をあてると，いろいろな課題，可能性が見えてくる．

建設機械は，よく言われるように「すり合わせ」の技術であり，革新技術が企業の存続を左右するようなハイテク技術とは明らかに異なる，いわば「積み上げ」「経験」で成り立つ技術であると言える．「技術の歴史」「技術の伝承」がキーになるし，これは開発部門にかかわらず，生産技術，サービス技術等全ての技術分野に言えることである．一般的に技術力が高い企業というと，先進技術を適用した製品を打ち出している企業を思い浮かべる．燃費，騒音で高い技術レベルを達成した当社のダントツ製品もその範疇と言えるが，低燃費，低騒音を実現するための製品全体，システムとしての高い完成度を築きあげるのは多くの基礎技術，応用技術の積み重ねの結果である．

これはたとえて言えば，高い山を築くイメージを頭に描けば解りやすい．高い山を築くには裾野が広くなくてはいけないし，山を構成する岩や土の結合が弱いと山は崩れることになる．まさに積み上げを重ねることで高い技術の山ができるわけだが，この山は静的ではない．また技術力の山は単なる技術そのものではない．当然コンペティタとの競争のなかでの技術力であるから，コスト，スピード抜きの話では意味がない．環境の変化，市場の変化等ダイナミックな変化のなかで技術の山を築き上げていく必要がある．

一方，キーとなる技術の積み上げ，伝承には，よく「標準化」「データベース化」等が言われるが，ここには大きなチャレンジすべき課題がある．いまだに過去の失敗を繰り返したり，基本を守ったやり方がされてなかったり，メンテナンス不十分で活用されないまま眠ってしまったデータベース等，技術力の山が空洞化したり，山が崩れそうな状況が散見される．また技術そのものの面でも性能，耐久性，信頼性向上の核心が「バラツキへの挑戦」とも言える我々の技術フィールドを考えれば，単に「標準化」と言っても話は単純ではない．「標準化」は必要条件であるが十分条件ではない．これらを突詰めればおそらく「企業風土」の議論にまでいくと思う．

つまるところ「技術力が高い」とは，当たり前の結論であるが，人，組織，企業風土を含めた企業の総合力であると言える．

もちろん，技術力を高めるドライビングフォースは，高い目標に果敢にチェレンジする精神であり，絶え間ない小さな革新と確実な伝承を続け，ふと気がつくと高くそびえるまさに「ダントツの技術の山」，それも丈夫でしなやかで，かつ，中はマグマで燃えている「火山」が我々の目ざすべき姿であろう．